

美しが丘北防災新聞

発行
美しが丘北
自治会
2018年
10月25日

第1回/3月



まずは、防災についての意見交換から始まりました。美しが丘で一番考えなければいけない災害は何か、美しが丘に適した防災とは・・・いろいろな意見から町内会ごとの課題や問題点をまず考えることから始めることにしました。

第2回/7月



町内会ごとに「アンケート」や「組会」の呼びかけを行い地域の防災意識を調査、課題の整理を行いました。家庭や町内会、自治会などに対する問題が少しずつ見えてきました。同時に「地域の総点検」を有志で行い危険な場所のチェックを行いました。

公民館の入り口に自治会が備蓄している非常食の展示をしています。各100食分、もしもの時のためです。大きな災害に備えてご家庭でも3日分の備蓄をお願いします。

第4回検討会議10月～対応策へ～



防災訓練をやってみては？

家庭での備えが大事！
自分の安全を第一に

災害時の連絡方法はどうすればいいんだろう

検討会議の情報を発信した方が良いね

第3回/8月

7月の「地域の総点検」後、豪雨により公民館横の法面が地滑りを起こし、災害の危険が身近にあることを感じさせられました。



8月5日（日）の検討会議では、町内会ごとの課題を分析し対応策をみんなで考えました。町内会長にはもう一度、組長単位での意見交換をお願いし町内会で取り組むべき災害と自治会全体で取り組むべき災害を考えてもらいました。

10月14日（日）には、これからの対応について活発な意見交換が行われました。

町内会の特化する災害は、やはり「地震」が1位でした。

「バイパスの橋が耐えられる地震の震度は？」「法面の上の建物は地滑りが心配」「水タンクが地震で壊れた時は？」

「情報伝達はどうすればいい？」

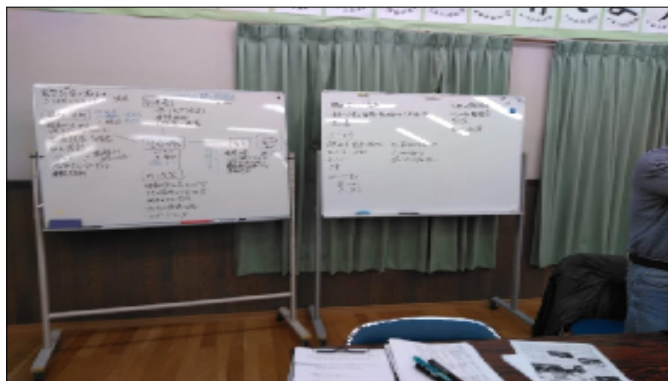
「水道が止まった時の為に井戸を掘って備えることはできないか」などいろいろな意見が出ました。

日常備蓄(ローリングストック)とは、災害に巻き込まれた時に備えて、普段から家庭で使う物を少し多めに購入しておくという備蓄の方法です。普段から家庭で使う物を3日分×人数分ぐらい常にストックしておく。使った分は常に補充する。消費期限が長い保存食を備蓄するより保存場所などの無駄が省けます。

美しが丘北防災新聞

発行
美しが丘北
自治会
2019年
3月25日

発災後3日間の対策 地域課題を絞り込む



10月27日/第5回会議

地域の皆さんから出てきた意見をまとめた中から『地震に特化』して課題を絞り込みました。大きな災害が広範囲に起こったら、市役所などの対応は間に合いません。現場に食料もすぐには届きません。発災後の3日間は自分たちで乗り切らなくてはいけなくなります。昼と夕方、夜と時間によっても自分たちが置かれる状況が違います。一戸建てとアパート、マンションでも対応が違います。具体的な対応策を考えていくのはこ

れからですが「自分を守る事」をまず一人一人が考え行動する事が一番大事です。水や食料の備蓄もそうですが、家具の倒壊に備える、避難場所を決めておく。家族の連絡方法を決めておくなど災害をイメージしながら自分の身の回りから少しずつ整えていきましょう。お父さんもお母さんもおじいちゃんもおばあちゃんも家族みんなが安全に避難して無事に出会える。しっかりした対応が出来るように家族会議を!

防災先進地視察(月の浦自治会/大野城市)

11月27日(火曜日)月の浦公民館(大野城市)に先進地の活動を学ぼうと検討会のメンバーで訪ねました。竹村区長から市、コミュニティ運営協議会の取り組みと行政区の連携を学び、地域で行われている具体的な行動を教えてくださいました。防災の要は「地域全体の防災意識の底上げ」「定期的な訓練」によるシュミレーション。特別な訓練でなくても

自治会活動の中にすぐに防災に繋がるものがある事も興味深い話でした。例えば『一斉清掃時の参加者の点呼』これは、発災時の安全確認になります。夏祭りのテント立ては野外の避難所設営に役立ちます。餅つきは炊き出しに繋がり総会や各種行事の受付は避難所運営の開設時に活かせる。無理のない所から出来る活動が見えてきました。



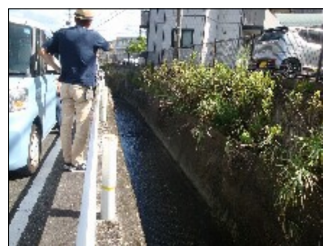
公民館の入り口に展示中

自治会では、緊急時に備えてフリーズドライの非常食(3種類)乾パン、羊羹、水など各100食ほどの備蓄をしています。住民の皆さんに知っていただくために公民館に常時展示しています。地域全体をどうにかできる量ではありませんが

100食分の備蓄

災害時には、自宅から備蓄品を取り出せない方や一部の地域だけが被災することも考えられます。帰宅難民の対応が求められるかもしれません。自分の家族もどこまでお世話になるかもしれない。余裕ある対応が出来る範囲の備蓄と考えてください。あくまでも自分たちの3日分は自分たちで準備するが鉄則。これからの防災訓練などで試食してもらうことも検討中です。

身近な危険箇所をチェック



以前行った危険箇所の確認で五郎山古墳館から南コミセンに抜ける道の側溝が豪雨時には道路まで冠水して避難が必要な時には通れなくなる可能性がある事がわかりました。家の近くに危



険箇所が無い日頃から気にかけておく事が大事です。何かいつもと違う音がする、亀裂が入っているなど、気になることが起きたら隣組長や町内会長に相談してください。

普段から持ち歩きたい防災グッズ

飲料水(500ml程度の量)携帯食(チョコレートやキャンディーなど)ホイッスル(閉じ込められた時の救助用)懐中電灯(携帯用のミニライト)携帯ラジオ(携帯性を重視したコンパクトサイズのもの)携帯電話(予備のバッテリーは忘れずに)連絡先メモ(緊急時の連絡先や、集合場所などのメモ)身分証明書とコピー、筆記用具(メモ帳・シャープペ

ンシル)10円硬貨(公衆電話用)救急セット(消毒液、脱脂綿、ガーゼ、絆創膏、包帯、三角巾)持病薬(最低3日分)出来れば処方箋のコピーも持っておくと安心です。マスク、簡易トイレ(余裕があれば)水に流せるティッシュ、使い捨てカイロ(2~3個)バンダナ、安全ピン、ポリ袋、レインコート、ふろしきなどがあればかなり安心です。

<https://www.nhk.or.jp/sonae/> NHKそなえる防災のサイトに役に立つ情報がたくさん提供されています。パソコンを使える方は一度ご覧になってみませんか?